

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年10月26日(月)～平成27年11月1日(日)〔第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。

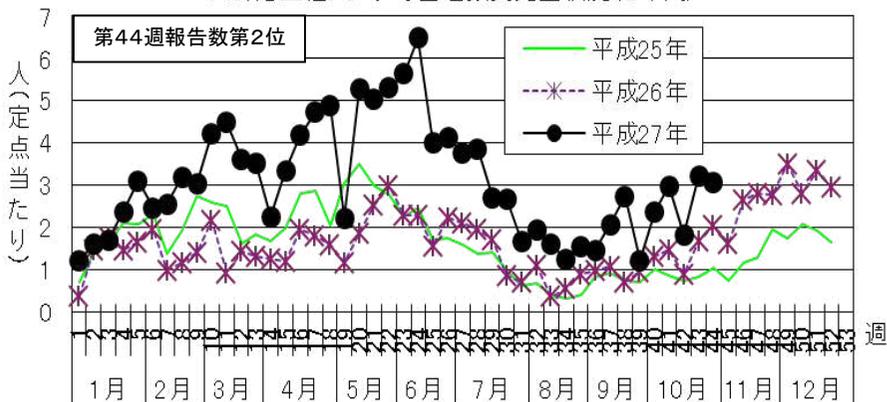
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.58人と前週(5.48人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.06人と前週(3.21人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

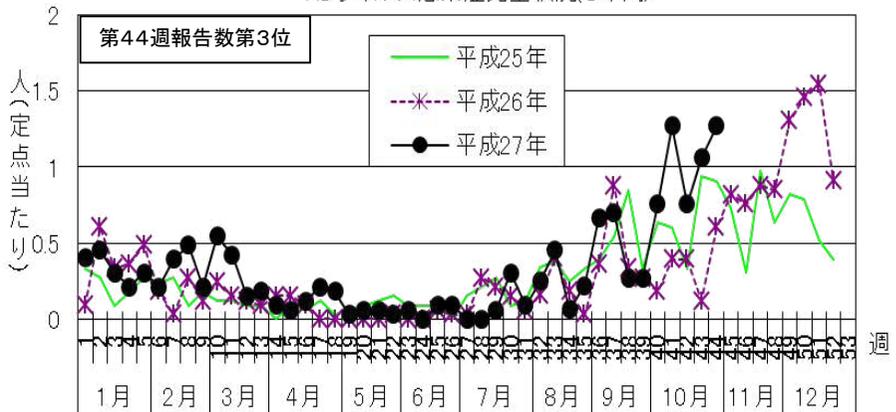
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.27人と前週(1.06人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



RSウイルス感染症発生状況(3年間)



～冬の感染性胃腸炎の流行に備えて～



感染性胃腸炎は細菌やウイルスなどが原因で起こり、主に下痢やおう吐などの症状がでる感染症です。カンピロバクターやサルモネラなどの細菌、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスが主な原因微生物です。秋から冬にかけては主にノロウイルスを原因とする胃腸炎が流行し始めます。

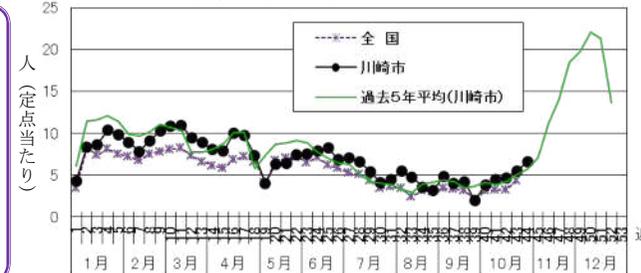
予防対策

主に接触、飛沫感染のため、こまめな手洗いが重要です。また、患者の便やおう吐物を適正に処理し、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)等で消毒してください。

感染してしまったら・・・

頻回の下痢やおう吐により、体内の水分を多く失いますので、水分補給に努めましょう。また、細菌が原因の胃腸炎の場合は、抗菌薬の投与が必要なこともあります。

感染性胃腸炎発生状況(平成27年)



ノロウイルス(GII.17 変異株)に注意しましょう!
2015年1月以降、新たなタイプのノロウイルス(GII.17 変異株)の検出例が増えています。ほとんどの人が免疫を持っていないため、流行が大きくなる可能性があるため注意が必要です。

